



おはようロスアンゼルス

倫理研究所 U. S. A. 南カリフォルニア倫理の会

6月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2015年(平成27年) 6月1日(月)

NO. 165

体験報告

「生きぬく力」

五班 尾崎宏乃進

得をするか損をするか、どちらかを選べと問われたらほとんどの人が得を選ぶでしょう。ですが、その得を手に入れるにはまず与える必要があります。そういう視点から物事をみつめてみると、人は他に何かを与えるために生まれてきた、といっても過言ではないはず。もちろん生きている人同様、もうすでに他界された方も必ず他に何かを与えるために生まれてきたんだとおもいます。

僕の姉もその一人でした。姉の名前は茂花、花が生い茂るように女の子らしく、元気にすくすくと育ってほしいことからそう名づけられました。しかし姉は脳脳症と言って脳の左側の部分が形成されない障害を持って生まれてきました。当時の僕はまだ7、8歳で障害を持った姉を恥ずかしく思っていました。ですが同時に姉のことを心から愛していました。姉は僕が落ち込んでいた時も、悲しんでいる時も、いつも「ひろー、ひろー」と僕の名前を呼んでにこにこしていてくれました。

僕も周りの人たちも何度、

姉の温かい笑顔に救われたか
しれません。だから姉が発作
で苦しんでいる時や泣いてし
まったときは、僕は姉の名前
を呼んで早く良くなりますよ
うにと、心の中でお祈りをし
ていました。

少し他とは違っていました
がたった一人の大好きな姉に
かわりはありませんでした。
そして少し変わっていたから
こそ僕は若いうちに他人の
きないような経験を姉から与
えてもらうことができたので
す。この経験を僕は無駄にす
るつもりはありません。今で
は姉は僕の誇りであり亡くな
って姿は見えませんが我が家
の大切な家族の一員です。も
う昔みたいに姉の笑顔が見ら
れないのは心惜しいですが、
きつと今頃美しい花になって
僕達を見守ってくれているに
違いありません。

最優秀賞

これは三月八日の文化講演
会で発表された尾崎君の体験
報告です。尾崎君はこれをも
って日本語学協同システム
連合スピーチコンテスト(小
学部から中学部までの五校
選抜五十四人)に臨み、見事

最優秀賞を獲得しました。

協同システム小林政子理事
長は挨拶でバレー学園の三人
がしきなみ子供短歌コンク
ールに入賞したことに触れ、

「六万二千首の中から選ばれ
たという事は、快挙であり
協同システムの誇りでもあり
ます。美しい正しい日本語を
これからも伝承してほしいと
思います」と述べられました。
た。若い尾崎君やしきなみ会
員摺木洋子さんの努力で倫理
が少しずつ地域社会に根付い
ています。

実践報告

三班 梅本豊造

腎臓結石ができて苦勞して
います。倫理は何を教えてい
るのかと静かに考えてみまし
た。私の、自分にも他人にも
厳しい性格が災いしているの
ですね。その思いが結石にな
ったのだと思ひ当たります。
すなおに受け入れる心を養う
実践を致します。

実践報告

三班 梅本和子

主人が結石の手術を受けま
した。安心して帰宅したので
すが、また、痛みを訴え、再
検査に行きました。そうした

ら新たな石が見つかったの
です。痛みをこらえ薬と大
量の水飲みで流そうとしま
したが流れませんので、再
び入院しました。

主人はとて我慢強い人
ですから、主人が痛いとい
うのは余程の痛みに違いあ
りません。側で見えていて何
もしてあげられない自分が
もどかしくてなりません。
私は妻として何を実践し
たら良いかを考えました。
そうして気づいたのは、
「自分は主人への感謝が足
りない」ということでした。
た。細々とした日常のこと
を主人は黙ってしてくれま
す。それを、当たり前の上
うに平気な顔でいましたが
主人がいなければ、私たち
ち困る私です。

私は痛み止めを飲んで寝
ている主人に手を合わせ、
自分の傲慢さ、強情さを心
から謝りました。そして感
謝の気持ちを言葉に出して
伝えました。これを続けて
おります。主人の結石が私
の妻としての至らなさを教
えてくれました。これから
は、主人に感謝して感謝し
て二人で元気に暮らしま
いります。

おめでとございませう

『しきなみ』五月号

群策集 (西東京・海外)

二席 梅本豊造

日食を今か今かと眼鏡かけ雲ひとつない太

陽仰ぐ

『秋津書道』五月号

競書

九席 咲田静子 高等部 (東京)

入選 梅本豊造 々 々

入選 長谷川松子 々 々

三席 前田グレース 一般部 (東京) 行書

九席 草野律子 々 々

入選 脇山由希 々 々

入選 大竹信雄 々 々

入選 高橋忠彦 一般部 (東京) 楷書

入選 高橋ひとみ 々 々

入選 飯田隆 々 々

入選 竹内康子 々 々

入選 高田弓子 々 々

遺民蓮

池歸之

南カリフォルニア 前田グレース

3席 前田グレース

線質が伸びやかで美しく
日頃の努力が見える。

調和体

六席 滝川政和 芸術部 碧の部

成就の秘訣

「成就の秘訣」それは別に変わったことがあるのではない。思い立ったら止めない、出来上がるまで止めないということである。

どうしたら、続けることが出来るであろうか。続けるといっても、実は、繰り返しかえし繰り返して同じことを反復するだけである。だから目の前ただ一度、これを守ろう、やろうとすればよい。高山に登るといったところで、左・右、左・右と、これを繰り返しかえして進むのである。「反復」とは、同じことを繰り返しかえすのである。だから、一度一度に上手になる。(『丸山敏雄 一日一話』十頁)

しきなみ短歌

陽だまりの松の花粉は風にまい黄ばみて
烟る「もう春ですね」 杉野和子
友よりのメールで届く桜には驚止まりホ
ケキョと啼きそう 長谷川松子
我が子とは何を聞いても「多分ね」と会
話の糸口シャットするなり 塩出笑子
競技では見せない笑顔を氷上に咲かせて
滑るメダリストらは 伊澤潤子

葉桜を見ながら食べるお弁当おかずはスマホで日本の桜 飯田隆

帰宅したオリビアの背にパーカーは飛び乗り抱きつきにつこり笑う 梅本豊造

姑書きし書道ほめれば吾を見詰め顔くしやくしやにし幼児のよう 梅本和子

いた振るる雷風雨に無惨にも一夜散り敷く藤の花房 門園美枝子

得意気に判断不能な文字並べ己が名と言う四歳保育児 ホン史子

リビングに初めて活けし花を置く生きるゆとりのここにあるらし 松永典子

スピーチで堂々とした姿を見子供成長肌で感じる 尾崎よしみ

朝起きて青春時代の音楽を聞かいて今日も元気に生きる 与那覇寛雄

引く波に豆炒る音のさざれ石春の浜辺に亡き夫といる 森田のりえ

前向きな言葉を友より教わりぬ「和顔愛語」が心で踊る 草野律子

真夜中に吾の求めたる靴を買いうれしがらせる優しい娘 摺木洋子

早朝の湿った草に日が射してかすかに昇る湯気が立ちたり 松元依子

こんもりと枝さし交わし咲きみだれ桜並木はその地の誇り 滝川歌子

満月は下界の宵を明かあかと照らしてまぶし澄み渡る空 奥本洋子

突然に意識を失う祖母のあり父はすかさず近寄りしとつ 矢口裕司